演題番号14	多飲水により行動制限を行っていた統合失調症患者の看護 ～申告飲水というかかわりから見えてきたもの～
発　表　者	府中市立湯が丘病院　看護師　山野　裕紀
共同発表者	

精神科慢性期病棟であるＢ病棟では，患者に多飲傾向が認められると飲水制限をし，それでも体重減少しない場合には隔離室を行動制限目的で使用する場合が多く見られる。今回，多飲水し隔離処遇を繰り返すも自覚がみられず，すぐに飲水して隔離をするという悪循環が断ち切れない統合失調症のＡ氏に対し，川上らの提唱する『申告飲水』を導入し，さらに『体重自己チェック表』を用い，患者－看護師間のかかわりを強化した結果，飲水行動に変化をもたらし，大幅な体重増加なく水中毒を起こすことなく生活が送れるようになり，隔離処遇を必要としなくなった。この経過を報告する。

MEMO